

香曾我部義則先生 の今月のカルテ ⑱

# 慢性痛とペインクリニック

テレビや雑誌などでも取り上げられ、周知されてきたペインクリニック。その治療法について、梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、分かりやすく説明してくれるこのコラム。第19回のカルテは、「頸椎(けいつい)症」の頸椎椎間関節の痛みと治療についてです。

脊髄(せきずい)を保つてくる穴(椎間孔)を通って脊髄管から出てきているか、ヘルニアなどの関節の部位には脊髄神経が枝分かれした脊髄後

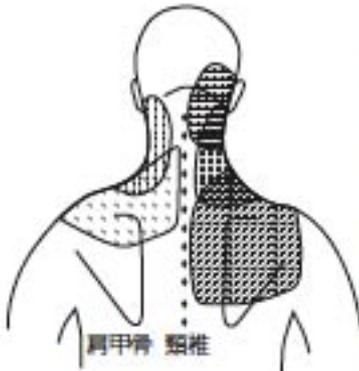
## 肩凝り・頭痛と思っていた痛みが

## 実は頸椎関節の障害である場合も

椎間関節は脊髄を後方から支持しています。頸椎は7つの椎骨と8つの脊髄神経(頸神経)から成ります。椎間関節は脊髄を後方から支持しています。頸椎は7つの椎骨と8つの脊髄神経(頸神経)から成ります。椎間関節は脊髄を後方から支持しています。頸椎は7つの椎骨と8つの脊髄神経(頸神経)から成ります。

■プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、岡山大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て平成16年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医、現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

香曾我部義則先生



頸椎の一番上を関節C1と示す。以降C2、C3...  
 ■■■■■■■■ 頸椎C2、C3の刺激で感じる部位  
 ■■■■■■■■ 頸椎C3、C4の刺激で感じる部位  
 ■■■■■■■■ 頸椎C4、C5の刺激で感じる部位  
 ■■■■■■■■ 頸椎C5、C6の刺激で感じる部位  
 ■■■■■■■■ 頸椎C6、C7の刺激で感じる部位

みだけでなく、痛みが伝わる部位にもあります。図は正常人ホランティン注射する方法が効果を示すアから得られた結果を基に、関節を刺激したときに感じる部位を示したものです。後頭部から肩甲骨に至る広い範囲での放散痛の分布が分かります。従って、肩凝りと思っていた痛みが実は、C5、C6、C7の関節(頸椎の5・6・7番)の痛みであったり、後頭部頭痛と思っていたものの原因がC2、C3、C4の頸椎関節の障害であったりすることもあります。つまり首を傾けたり回したりする際、痛みが肩に響いたり、背中を走ったり、後ろ頭が痛んだり、耳にかけて痛みを感じたりするということ。重なりあう部分も多いため一つの関節だけを治療しても不十分な事もあります。

治療では、この椎間関節に少量の局所麻酔薬を注射する方法が効果を示します。いつも痛みが感じられる部分に一瞬痛みが走り(痛みの再現性)薬が効いてくると痛みが消失するという特徴があります。効果を確実にするにはレントゲンを見ながら(透視下)行う必要があります。

頸椎椎間板ヘルニアや頸椎症性神経根症でも椎間関節障害を伴っていることが多いため、症状の緩和のためまず椎間関節ブロックを試してみると良いでしょう。

トリガーポイント注射や星状神経節ブロックも併用すると効果的です。次回はおち打ち症(外傷後頸部症候群)について説明する予定です。

■X7 問い合わせ先  
 ☎(293) 3355代  
 梶木病院(西花尻)